

2月3日(土)

## 令和6年度 A日程入学試験問題

# 選 択 科 目

### — 注意事項 —

- 1 問題ページは以下のとおり。解答用紙はいずれの科目も1枚である。

日本史	1 ~ 13 ページ	世界史	14 ~ 26 ページ
政治・経済	27 ~ 47 ページ	数学①	48 ~ 53 ページ
数学②	54 ~ 61 ページ		

- 2 試験開始後、問題を見てから解答する科目を選択することができる。

選択した科目は、解答用紙の科目名欄へ指示にしたがって記入し、選択欄を必ずマークすること。

※数学を選択する場合は、文学部、神道文化学部、法学部、人間開発学部は「数学①」を、経済学部、観光まちづくり学部は「数学②」を解答すること。

- 3 解答は、解答用紙の解答マーク欄へ問題の指示にしたがってマークすること。

解答用紙は全科目共通であるから、科目によってはマークしなくてもよい解答マーク欄がある。

なお、数学の解答のみ解答用紙裏面の「B面」に解答すること。

- 4 裏表紙に数学の解答上の注意が記載してあるので、この問題冊子を裏返して読んでおくこと。

- 5 試験時間は60分である。

## 日本史

1 この問題は、解答欄 1 ～ 10 に解答すること。

次の文章 A・B を読んで、後の問いに答えなさい。(25点)

A (1) 弥生時代の倭では、2世紀終わり頃の大きな争乱を経て、邪馬台国の卑弥呼を中心に29国ばかりの小国からなる連合が生まれたことが (2) 「魏志」倭人伝に記されている。その後3世紀後半には、前方後円墳をはじめとする古墳の築造が広がり、箸墓古墳などの出現期の古墳が集中する大和地方を中心に、より大きな政治連合が成立することになった。(3) 古墳時代に成立したこの政治連合をヤマト政権という。

4世紀末から5世紀に大阪平野の百舌鳥古墳群や古市古墳群に築造された巨大前方後円墳は、ヤマト政権の盟主となった (4) 近畿地方の大王たちの政治権力の大きさを物語る。ヤマト政権は優れた知識や技術をもつ渡来人らを  と呼ばれる職能集団に組織する一方、豪族たちを  という身分序列の中に編成し、政治的支配の仕組みを強固なものにしていった。

問1 下線部(1)に関する説明として誤っているものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 青銅器の铸造や絹布の機織りなどの手工業生産が始まった。
- イ 水稻農耕が開始され、石器とともに鉄製の農具が使用された。
- ウ 階級社会が形成され、首長層を埋葬する墳丘墓が出現した。
- エ ひすいなどの希少な装身具や黒曜石などを流通させる交易が始まった。

問2 下線部(2)にみえる記事の説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 男女ともいれずみをし、大人・下戸と称する身分の尊卑があった。
- イ 租税を納める倉庫があり、国々にある市で交易が行われた。
- ウ 卑弥呼は239年、楽浪郡に遣使して魏に朝献し、親魏倭王の称号と金印紫綬を賜った。
- エ 卑弥呼の死後、狗奴国の男王が立てられたが、諸国は服従しなかった。

問3 下線部(3)における次の5つの事項を年代順に並べたとき、その3番目として最もふさわしいものを、次のア～オの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 須恵器生産の開始      イ 円筒埴輪の出現      ウ 七支刀の献上  
エ 八角埴の出現      オ 磐井の乱の発生

問4 下線部(4)に関する説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 倭の五王が宋や北魏にたびたび朝貢した記事が中国の史書に見える。  
イ 倭王武の上表文は、父祖の軍功を記し、高句麗との戦いで宋の支援を求めている。  
ウ 大阪府大仙陵古墳などの墳丘長300m以上の前方後円墳は、すべて近畿地方に分布する。  
エ 埼玉県稲荷山古墳出土鉄剣銘文に見える「ワカタケル大王」は、仁徳天皇と推定される。

問5 空欄  と  にあてはまる語句の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア a一部曲    b一冠位      イ a一名代・子代    b一氏  
ウ a一部民    b一位階      エ a一品部            b一姓

B 乙巳の変の翌年に  が宣布した改新の詔には、古墳時代から続いた豪族の地方支配を廃して、公地公民制を目指す政策方針が示された。その方針のもと、全国的な人民と田地の調査をもとに (7) 戸籍 が作られた。律令制による政治の仕組みは、701年に完成した大宝律令によって整えられ、地方支配の組織として全国が畿内・七道に行政区分され、(8) 国・郡・里 が置かれた。

開墾した田地の永年私有を保証した (9) 墾田永年私財法 は、開墾を奨励して耕地拡大をはかり、律令国家の土地支配を強化しようとする政策であったが、貴族や大寺院、地方豪族の私有地拡大を招く結果となった。8世紀末から9世紀になると、(10) 公地公民を原則とした律令制の地方支配は次第に困難となっていた。

問6 空欄  にあてはまる人名として最もふさわしいものを、次のア～オの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 舒明天皇      イ 中大兄皇子      ウ 孝徳天皇  
エ 皇極天皇      オ 山背大兄王

問7 下線部(7)に関する説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 最古の戸籍である庚午年籍は永久保存とされ、一部が正倉院宝物として現存する。
- イ 天武天皇の時に作られた庚寅年籍以後、6年ごとの造籍の制度が確立された。
- ウ 班田収授と調・庸徴収のための基本台帳で、治部省がつかさどった。
- エ 民衆は戸に所属する形で登録され、口分田の班給も戸を単位として行われた。

問8 下線部(8)に関する説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 国司は中央政府から派遣され、任期は6年、卿・輔・丞・録の四等官に分かれた。
- イ 平城宮出土木簡により、養老令以前は「郡」は「評」と称されたことが判明した。
- ウ 郡司は旧国造ら在地豪族が終身制で任命され、郡の役所である国府で政務を行った。
- エ 里は50戸で構成され、郷戸には戸主の親族だけでなく異姓の寄口や奴婢も含まれた。

問9 下線部(9)により、庶民に認められた(制限された)土地開墾の面積として最もふさわしいものを、次のア～オの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 2段      イ 5段      ウ 1町      エ 5町      オ 10町

問10 下線部(10)の状況を是正するために、桓武天皇が実施した政策として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 令外官の勘解由使を設置し、国司交替の際の不正防止に当たさせた。
- イ 初の荘園整理令により、大寺院などによる違法な土地所有を禁止した。
- ウ 正丁に課される歳役を廃止して、庶民の負担を軽減した。
- エ 蝦夷制圧を進め、東北経営の拠点となる鎮守府を創設した。

**2** この問題は、解答欄 **21** ～ **30** に解答すること。

次の文章 A・B を読んで、後の問いに答えなさい。(25点)

A 平氏の経済基盤の一つは、**21** 以来、力を入れるようになった **(22)** 日宋貿易 である。11世紀後半以降、日本と高麗・宋とのあいだで商船の往来が活発になり、12世紀に宋が女真人の建てた金に圧迫されて **(23)** 南宋 になると、さらに貿易は活性化した。鎌倉幕府も平氏政権の海外通交を引き継いだ。13世紀になると **(24)** モンゴルが大帝国を建設し、日本への圧力を強めた。その一方、この時代に大陸からもたらされた様々な文化は、**(25)** 鎌倉時代の文化や経済にも大きな影響を与えたのであった。

問1 空欄 **21** にあてはまる人名として最もふさわしいものを、次の ア～オ から1つ選び、解答欄 **21** にマークしなさい。

ア 清盛      イ 重盛      ウ 忠盛      エ 時忠      オ 正盛

問2 下線部 **(22)** について、日本からの輸出品として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から1つ選び、解答欄 **22** にマークしなさい。

ア 硫黄      イ 香料      ウ 書籍      エ 陶磁器      オ 薬品

問3 下線部 **(23)** に渡った人物に関する説明として最もふさわしいものを、次の ア～エ の中から1つ選び、解答欄 **23** にマークしなさい。

- ア 土木事業や慈善事業に力を尽くし、奈良に北山十八間戸を建てた。
- イ 神職の家から延暦寺に入って学び、旧仏教の批判に『興禅護国論』で反論した。
- ウ 父は京都の公家で、法難により越後へ配流された後、関東で布教した。
- エ 漁師の家に生まれ、諸宗を学んで法華宗を開き、辻説法で他宗を攻撃した。

問4 下線部 **(24)** に関する説明として最もふさわしいものを、次の ア～エ の中から1つ選び、解答欄 **24** にマークしなさい。

- ア フビライは、南宋を滅ぼした後、日本に朝貢を強要するようになった。
- イ 鎌倉幕府は、北条氏一門を鎮西探題として大宰府に派遣して警戒を強めた。
- ウ 文永の役でモンゴル(元)軍と高麗軍は対馬・壱岐を攻め、博多湾に上陸した。
- エ 文永の役の後、鎌倉幕府は異国警固番役を九州地方の御家人に初めて課した。

問5 下線部 (25) に関する説明として最もふさわしいものを、次の ア～エ の中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 興福寺復興の大勸進職となった重源は、陳和卿らを登用して事業を成功させた。
- イ 備前の常滑焼には、釉薬の使用など、宋や元の製品の強い影響が認められる。
- ウ 永楽通宝などの宋銭が輸入されたことで、国内の商業取引が活性化した。
- エ 南宋から来日した蘭溪道隆は、北条時頼に招かれて、鎌倉に建長寺を開いた。

B 1368年に朱元璋によって建国された明は、中国を中心とする伝統的な国際秩序の回復をめざし、近隣の諸国に通航を求めた。この呼びかけに応じて、日本は明と国交を開き、(26) 日明貿易 が開始されたが、 の反対によって一時中断したこともあった。また、朝鮮半島では1392年に李成桂が高麗を倒して朝鮮を建国した。倭寇の禁止と通航を求めた朝鮮に対して日本も応じ、国交が開かれた。これにより (28) 日朝貿易 が活性化し、日本からの使節の接待や貿易のための (29) 倭館 が朝鮮側の三浦に置かれたが、16世紀に入ると次第に衰えていった。室町幕府が倒れると、豊臣秀吉は朝鮮に対して入貢と明へ出兵するための先導を求めたが、朝鮮はこれを拒否した。秀吉は  の名護屋に本陣を築き、朝鮮出兵を敢行したのである。

問6 下線部 (26) に関する説明として最もふさわしいものを、次の ア～エ の中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 1401年の遣明船の正使は僧の祖阿、副使は堺商人の肥富であった。
- イ 国交を開くにあたり、日・明両国の間では暦を交換する儀式が行われた。
- ウ 日明貿易では、滞在費・運搬費などの負担が大きく、日本の利益は少なかった。
- エ 幕府の衰退後は、細川氏との争いに勝利した大内氏が貿易の実権を独占した。

問7 空欄  にあてはまる人名として最もふさわしいものを、次の ア～オ から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 足利義詮      イ 足利義勝      ウ 足利義教      エ 足利義満      オ 足利義持

問8 下線部(28)に関する説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄 28 にマークしなさい。

- ア 貿易の当初から守護・国人・商人らも参加した点で、日明貿易とは異なっていた。
- イ 応永の外寇では、倭寇の本拠地とされた博多が朝鮮軍船によって襲撃された。
- ウ 癸亥約条が締結されたことによって、正式に貿易が開始された。
- エ 明朝初期の作品である『倭寇図巻』には、前期倭寇の様子が描かれている。

問9 下線部(29)について、三浦以外に倭館が置かれた都市として最もふさわしいものを、次のア～オの中から1つ選び、解答欄 29 にマークしなさい。

- ア 開城      イ 慶州      ウ 漢城      エ 元山      オ 平壤

問10 空欄 30 にあてはまる語句として最もふさわしいものを、次のア～オの中から1つ選び、解答欄 30 にマークしなさい。

- ア 尾張      イ 豊前      ウ 筑後      エ 対馬      オ 肥前

**3** この問題は、解答欄  ～  に解答すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(25点)

江戸幕府 8 代将軍徳川吉宗は漢訳洋書の輸入を緩和し、(41)青木昆陽や  にオランダ語を学ばせた。これを契機に洋学は次第に社会に広がったが、なかでも  ・杉田玄白らによる (44)『解体新書』の翻訳は画期的な成果であった。その後、医学の分野ではいっそう洋学が隆盛し、(45)鳴滝塾や (46)適々斎塾(適塾)などの私塾が開かれ、そこで学んだ人々には幕末・明治期に活躍した人もいた。江戸幕府も洋学を積極的に取り入れ、(47)天文方に (48)高橋至時を採用し、(49)蛮書和解御用を設けた。しかし、1839年には (50)蛮社の獄と呼ばれる蘭学者弾圧事件がおきた。

問 1 下線部 (41) に関する説明として最もふさわしいものを、次の ア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 蘭日対訳辞書である『ハルマ和解』を著した。
- イ 『甘藷記』・『蕃薯(藷)考』を著し、甘藷を普及させた。
- ウ 世界の地理・風俗を『采覧異言』に著し、江戸幕府に献上した。
- エ 長崎で見聞した海外事情を『華夷通商考』に著した。

問 2 空欄  にあてはまる人名として最もふさわしいものを、次の ア～オの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 関孝和      イ 田中丘隅      ウ 近藤重蔵      エ 野呂元丈      オ 大槻玄沢

問 3 空欄  にあてはまる人名として最もふさわしいものを、次の ア～オの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 工藤平助      イ 海保青陵      ウ 前野良沢      エ 間宮林蔵      オ 最上徳内

問4 下線部(44)に関する説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 解剖図は平賀源内に絵を学んだ秋田藩士の小田野直武が写し描いた。
- イ ドイツ人クルムスの『解剖図譜』の英訳を翻訳したものである。
- ウ 原書はオランダ人医師の著書で『ターヘル＝アナトミア』という。
- エ 扉絵は洋画に優れ『西洋婦人図』を描いた平賀源内が描いた。

問5 下線部(45)の説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 唐津にあった医学塾で高野長英・伊東玄朴らが学んだ。
- イ シーボルトは『蘭学階梯』などを著した研究者である。
- ウ 鳴滝塾には診療所があり、鳥取藩医稲村三伯もここで治療にあたった。
- エ シーボルトが開いた塾で医学・博物学の講義が行われた。

問6 下線部(46)の説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 緒方洪庵が1838年に長崎の出島に開いた蘭学塾である。
- イ 適々齋塾で学んだ人物に明六社創設に関わった福沢諭吉がいる。
- ウ 適々齋塾で学んだ人物に大村益次郎や橋本左内、山県有朋がいる。
- エ 緒方洪庵は適々齋塾を開いたのち、江戸に出て蛮書調所頭取になった。

問7 下線部(47)に関する説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 渋川春海が貞享暦をつくった功により設置された。
- イ 天文方は天文観測の他に医学も専門としていた。
- ウ 貞享暦以降、暦をつくる権利は朝廷に独占された。
- エ 初代天文方の渋川春海は儒者として幕府に仕えていた。

問8 下線部(48)に関する説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄 48 にマークしなさい。

- ア シーボルト事件で投獄され、獄死した。
- イ 『暦象新書』を翻訳し星雲説を紹介した。
- ウ 麻田剛立に天文学を学び、寛政暦を完成させた。
- エ 中井竹山と協力して、『新訂万国全図』をつくった。

問9 下線部(49)に関する説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄 49 にマークしなさい。

- ア 高橋景保の建議で設立され、測量器具の製作が行われた。
- イ 幕末期には蕃書調所・洋書調所と改称された。
- ウ 1811年に志筑忠雄の建議によって設置された。
- エ 軍事科学の導入に重点がおかれ、主に旗本の子弟が入学した。

問10 下線部(50)に関する説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄 50 にマークしなさい。

- ア 幕府政治を批判したとして大塩平八郎が処罰された事件である。
- イ 渡辺崋山は『戊戌夢物語』を著し、幕府政治を批判した。
- ウ 高野長英は『慎機論』を著し、幕府の外交政策を批判した。
- エ 高野長英らが小笠原渡航計画などを理由に逮捕された。

**4** この問題は、解答欄 **61** ～ **70** に解答すること。

次の文章 A・B を読んで、後の問いに答えなさい。(25点)

A 公の勲業の始終は、本書の中に悉くこれを掲げれば、今これを語る必要はないが、その中の主なる二は、即ち (61) 明治十年西南の役後に於ける紙幣銷却問題と、明治二十七八年、日清戦役後に於ける金貨本位制実行の問題であつた。

(62) 紙幣銷却の策を定むる、容易ではなかつたが、これを実行するは尚更ら困難であり、而してこれを徹底することは、更らに困難であつた。これが為に世間は不景気の極処に陥り、怨嗟の声天下に満つるに際し、公は前途の光明を望んで、断乎として動かず。此時に於て公を支持したるは、畏れながら上に聖明の明治天皇あり。下に二三の有識者あるばかりであつた。而して遂に目的を達して、我国財政の基礎は定つた。

(63) 金貨本位制実行に際しては、殆ど天下の有力なる実業家、若しくは朝野の財政上の権威者と称せらるゝ巨頭を挙げてこれに反対した。然るに公は断々乎として、固く信ずるところあり、遂に百難を排して之を実行した。

(徳富猪一郎編著『公爵 **64** 伝』坤巻より、句読点は加除し、旧字は新字にあらためた)

(注) 銷却 消すこと、消却。 怨嗟 うらみ、なげくこと。 坤巻 下巻のこと。

問1 下線部 (61) に関する説明として最もふさわしいものを、次の ア～エの中から1つ選び、解答欄 **61** にマークしなさい。

- ア 西郷隆盛は地租の増徴により農民が不満を高めるなか蜂起した。
- イ 西郷隆盛は1874年の台湾出兵に反対して参議の職を辞した。
- ウ 西郷隆盛が政府内にあったときに設立されたのが横浜正金銀行である。
- エ この戦争を遂行するため多くの不換紙幣が増発された。

問2 下線部 (62) に関する説明として誤っているものを、次の ア～エの中から1つ選び、解答欄 **62** にマークしなさい。

- ア 緊縮・デフレ政策により、米・繭などの物価が下落し、著しい不況に陥った。
- イ 徹底した緊縮政策により生じた歳入の余剰が紙幣の整理にあてられた。
- ウ 税負担に耐えかねた自作農が、土地を手放して小作農に転落した。
- エ この時期、金融制度確立のため制定されたのが国立銀行条例である。

問3 下線部(63)に関する説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄 63 にマークしなさい。

- ア 1871年の新貨条例は銀本位制を定めたものである。
- イ 日清戦争により停止された金本位制がこれにより復活した。
- ウ 日本勧業銀行・日本興業銀行などの特殊銀行も同時期に設立された。
- エ 貨幣法の制定により、円・銭・厘の単位が新たに定められた。

問4 史料Aはある人物の事跡をまとめた伝記にある記述である。その人物として、最もふさわしい人名を、次のア～オの中から1つ選び、解答欄 64 にマークしなさい。

- ア 伊藤博文      イ 黒田清隆      ウ 山県有朋      エ 松方正義      オ 大隈重信

問5 史料Aに記されている内容として最もふさわしいものを、次のア～オの中から2つ選び、解答欄 65 に2つマークしなさい。

- ア 64 の主な業績の1つは不景気を招きながら推し進めた不換紙幣の整理である。
- イ 64 は明治天皇の反対を押し切って紙幣銷却を進めた。
- ウ 64 による紙幣銷却は深刻な不況を招いたため 64 は大きく動揺した。
- エ 64 による金本位制の導入は財界・実業界や有識者の賛同を得て成立した。
- オ 史料のなかで 64 は断固として財政・金融制度を確立した人物として評価されている。

B (66) 無準備なる金解禁と不合理なる緊縮政策の結果は、都鄙<sup>とひ</sup>を挙げて深刻なる不景気を現出し、殊に中小商工業者と (67) 農村の苦痛は驚くべき状態に達し、倒産閉店あらゆる悲惨の深淵に陥りつつある。失業者の激増は日に日にその率を高め、不完全なる政府の失業統計によつてすら現に三十五万を数へてをる。然も実際は更に驚くべき多数に上つてをるのである。政府は此の不景気を挽回し、失業者を救済して国民生活の安定を計る責任がある。然るに政府は一面には其原因を世界的不景気に帰して責を免れんとし、又一面には俄<sup>にわか</sup>に失業防止委員会を設け眼前を糊塗<sup>こと</sup>せんとして居るのみで、何等見るべきの対策がない。(中略) 現内閣たるもの須<sup>すべか</sup>らく不合理なる緊縮消極政策が国家の産業を萎靡<sup>いび</sup>せしめ公私の事業を停頓せしめたと共に、準備対策を無視した金解禁と其前後処置を過つたことが (68) 悲惨なる社会現象を醸成<sup>ろうき</sup>したことを牢記すべきである。

(1930年4月、 議員総会における  総裁の演説、鶴崎熊吉『 伝』より、句読点を加え、旧字は新字に、カナはかなにするなど史料の一部をあらためた)

(注) 都鄙 都会と田舎。 糊塗 一時しのぎにごまかすこと。

萎靡 しおれてぐったりすること。 牢記 しっかりと記憶すること。

問6 下線部 (66) に関連して、この政策を進めた政府の経済政策の説明として最もふさわしいものを、次の ア～エ の中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

ア 当時の経済界の大半は、金解禁により円高が進めば輸出には不利に働き、貿易の振興を妨げるとしてこれに反対していた。

イ 金解禁により金本位制へと復帰することで、為替相場は不安定化して不況を招くと考えられていた。

ウ 政府はデフレと不況を導く可能性が高い金解禁の実施により、生産性の低い不良企業を淘汰し、経済界の体質改善をも図ろうとした。

エ 政府は緊縮政策をとる一方、企業の競争力を向上させるための産業合理化運動を推進したほか、不況対策としてカルテル結成を禁じた。

問7 下線部 (67) に関する説明として最もふさわしいものを、次の ア～エ の中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

ア 1930年には全国的な豊作のために米価が下落して農家に打撃を与えた。

イ 1930年には農家が現金収入を得る機会を作るため時局匡救事業が始まった。

ウ 1930年には不況に陥った農村を救済するため地方改良運動が始まった。

エ 1930年に小作争議対策として政府が成立させたのが農業基本法である。

問8 下線部(68)に関連してこの後に起きた事象として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア 軍人・右翼の政治活動が活性化したため、この内閣は治安維持法を改正した。
- イ 緊縮政策を進めた首相は不穏な社会情勢のなかで左翼青年に狙撃された。
- ウ 東北地方を中心に農村不況は深刻化し、女子の身売りなどが続出した。
- エ 増加する労働争議対策として政府が成立させたのが労働組合法である。

問9 史料Bはある人物が政党総裁として行った演説の一部である。空欄  には政党名が、 には人物名が入る。それぞれに入る語句の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～カの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア a—立憲政友会 b—高橋是清      イ a—立憲民政党 b—加藤高明
- ウ a—立憲政友会 b—田中義一      エ a—立憲民政党 b—若槻礼次郎
- オ a—立憲政友会 b—犬養毅      カ a—立憲民政党 b—浜口雄幸

問10 史料Bに書かれている内容として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ア  が批判の主な対象としているのは政府の不完全な統計である。
- イ  は世界的不景気がこの不景気の原因であるのでやむを得ないと論じている。
- ウ  は政府の進める政策が深刻な不況を招いていることを批判している。
- エ  は中小商工業の苦痛は農業に比べて軽度だと論じている。